

5月報(2020年) 萌 カトリック福山教会



〒720-0808 福山市昭和町 7-26
☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615
e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp
URL <http://fukuyama.catholic.hiroshima.jp/>

【5月：聖母月】

5月に、美しい少女を「メイ・クイーン」として選んでいた。「なんと言ってもいちばん美しいのは聖母だ」ということで、5月が聖母にささげられるようになった。5月は、新緑の美しい季節。色とりどりの花々が咲き乱れる美しい5月は、聖母にこそふさわしい月と見なされ、「聖母月」と呼ばれています。

猪口大記神父さま着任 ようこそ！福山教会へ



《プロフィール》

Maximilianus Marius Kolbe

- ・誕生日：1981年4月15日 ・鳥取市出身
- ・2014年4月～司祭叙階
幟町教会・三篠教会・翠町教会・東広島教会・向原教会 協力司祭
司教秘書
- ・2015年4月～イタリア
- ・2017年4月～宇部教会・北若山教会・高千帆教会 助任司祭
- ・2018年4月～玉野教会 主任司祭
- ・2020年4月～福山教会 主任司祭

主任司祭新任のご挨拶と皆様にお伝えしたいこと

1.ご挨拶

皆様、お久しぶりです。神学生の時にお世話になった猪口が、主任司祭として帰って参りました！

福山教会という規模的に広島教区内で3番目の教会に、まさかの若手司祭(38)が一人、園長兼務の主任司祭という任命です。いやぁ～、参りましたね。なんとも司祭不足を覗わせるかのようで、不安を抱かれるかも知れませんが、私が一番不安です。しかし皆様におかれましては、これも全て神様のみ旨と、静けさをもって受け入れていただければ幸いです。皆様の信仰の強さに期待します。

そして、どうか不安に思われる方は、この頼りない主任司祭を助けてください。教会とは、聖職位階のことではなく、神の民のことだからです。

2.所信表明

私は、司祭の在り方に大切なことの一つに、「死んでもいいように生きる」ことがあると考えています。それは何も殉教を目指すとか、そういったことではありません。

近年、「終活」という言葉が人口に膾炙するようになりましたが、教会にも伝統的に「死の準備」という考えがあります。よくキリスト教芸術のモチーフに「Memento mori」と言った言葉が使われているので、こういった考えがあることは、ご存知の方はご存知でしょう。古代ローマ時代のホラティウスという人物の「今日という日を摘め(今を生きよ)」と

という言葉と結び付けて、人の儚さを強調したり享樂的生き方を勧めるものと解されることもあります。それとももちろん違います。

また、それは単に「悔いなく生きる」というだけに留まりません。よく中世のペストの流行など死が身近であった時代に、現世の儚さと来世への期待が関心事となって「死を想え」という言葉が流行し、救いのために罪から離れ常に用意しておくことが大切とされたという説明がなされることがありますが、それだけでは私の考える「死んでもいいように生きる」とは少し異なります。

自分自身に関してのことだけで言えば、「死について考える」ということは、自分の限界について考えることであり、神の救いについて考えることでもあります。しかし、司祭とはキリストの三職「預言職・王職・祭司職」、つまり「教える任務・治める任務・聖化する任務」に役務的に与かる存在であり、それらは全て「他者のため」の任務なのです。自分が信仰の模範として聖人のように生きることは確かに大切でしょうが、ただ自分が清く正しく生き救いに与かることだけが関心事ではないのです。

「死んでもいいように生きる」と私が考える時、そこには「他の人が回せる」ということも含まれています。人間とはそれぞれかけがえがないものであり、それを教会では「人格(persona)」と呼ぶわけですが、司祭の役務はやはりその人格以上のものであり、もっと言うなら「キリストと一体となって(in persona Christi)」行われるものです。司祭の権能は、私の人格に由来するものではなく、キリストに由来する神の業です。「わたし」という存在の替えはありませんが、「司祭」という存在はいくらでも替えが利きます。いつ私が倒れ死んでも、神の民である教会は存在し続け、そこに必要な天の糧は与え続けられるでしょう。

実際の小教区の司牧という具体的な事例においても、同じことが言えます。司祭は、自分を中心とした個人的な関係で成り立つグループを作ることが目的ではありません。司祭は自分を告げ知らせるために存在するのではなく、キリストを告げ知らせるために存在します。司祭職を通じて人々がキリストと出会えば十分であり、司祭が去りキリストが残れば十分です。そこにいる神の民を構成するキリスト信者が、様々な神の恵みに活かされ、救いを告げ知らせることができるようにすべきです。

司祭が変わると色々変わると言われますが、それは司祭個人を見ればそうであるだけであって、本来何も変わりません。反対に、司祭が変われば色々変わるようなことは、それ程本質的なことでもないのです。

年若い主任司祭で不安かも知れませんが、私個人を尊敬する必要はありませんので、どうぞ神の司祭職を尊敬をもって受け入れ、安心していただければと思います。

3.新型コロナウイルスの流行に際して

さて、世の中は新型コロナウイルスの猛威に、大いに混乱しています。この時節、私達教会は、どの様に生きべきでしょうか？全く新しい事態に混乱しておられるかも知れませんが、教会の歴史の中で見れば、疫病や迫害によって、ミサに参加できないことは幾度もありましたし、今回が特別酷いというわけでもありません。長い教会の歴史の中では、このような時にどの様に処すべきか、色々な事例の蓄積が既にあるのです。

しかし、キリストが何度も「恐れるな」と言われるくらい、私達は恐れや不安によく囚われます。本来、信仰とは不安や恐れとは無縁のものであるにも関わらずです。

新型コロナウイルスの猛威の前に、あらゆる集会が避けられ中止されていますが、教会は変わることなく存在しています。ミサは非公開になっても、相変わらず捧げられ、「Missa pro populo」と呼ばれる小教区主任司祭の義務は問題なく遂行されています。また、ミサの意向も受け付けています。ただ、そこに臨席できないことは、多くの信徒の方の苦痛になっていることでしょう。

この時、どうぞ自分独りのことだけを考えるのではなく、以前からミサに参加できない人々のことも考え、彼等と連帯し

ていただけるといいのではないかと思います。病気や高齢などの理由や、社会生活上どうしてもミサに参加できない人は、以前からたくさんいました。そういった場合に、ミサに来ないことを責めるような態度を取ったり、自分がミサに参加することを誇ったりしている姿も、現実には時折みられました。それらは本来の信仰の在り方からは外れていたことは説明するまでもないでしょう。

例えミサに参加できない時であっても、自分の場所で心を合わせ祈ることや、聖体拝領を望むことは昔から「靈的聖体拝領」として勧められていました。本人の落ち度によらず、聖体拝領ができない場合に、聖体拝領を心から望む場合、その恵みの全部ではなくとも、大部分を受けることができます。神は気前の良い方であり全能であるので、救いを求める方のために手段を選ばれないからです。これが神への信頼であり、強い信仰の在り方だと思います。

今回、しばらく様子を見ていると、福山教会の若い青年達、特にベトナムから来ている青年たちの強い信仰に驚かされました。彼等は、最近まで強く、そして現在も国家のイデオロギーによって教会が抑圧されていた状況だったためか、ミサに参加できない時の祈りの方法をよく知っています。一人や数人で教会を訪れ、聖母像の前で祈り、聖堂で密やかに歌い、聖書を読み、一時間程過ぎて帰って行きます。まるで、潜伏キリタン時代の信徒の姿を見るようです。

これは私達の多くが見習うべき姿です。堅信の時に学んだと思いますが、信仰における成熟とは、年齢における成熟とは区別され、信仰によって死に至るまでキリストに従った年若い殉教者の模範はたくさんあります。「何十年も信者である」ということは、単純に自分を誇る理由になりません。

私達は、身近な若者の姿にキリスト者の模範を見出し、自らの信仰を磨く機会に恵まれていると気づくべきです。

4.具体的な対応と対策

① ミサは日々捧げられています

「ミサがない」わけではありません。平日は修道院で、主日は修道院と教会で捧げられています。ただし「非公開」です。一般の信徒の方は参加できません。また修道院は「暁の星学院」の学校敷地内にあり、そこには多大なる社会的責任が存在します。一般の方が不用意に出入り、感染機会などになると大変な責任問題となりますので、信徒の方は出入りしないようにお願いします。教会の福音宣教の任務の為、色々な施設が多くの人の努力によって築かれて来ました。どうか、皆様のご理解をお願いします。

② 聖堂は開放しています

個人的な祈りに来られる様に、聖堂は開放しています。常時換気して、感染を予防するように配慮しています。各自、感染防護措置としてマスク・手洗い・アルコール消毒などをした上で、直接の接触を避け、1メートル以上離れてお祈りをなさってください。祈ることが禁止されているわけではありません。ミサがないから祈れないというものでもありません。どうぞ迫害下のキリタンを想い起し祈ってください。

ただ、幼稚園は就労支援のため、臨時休園中でも職員が出入り、預かり保育が実施されています。防疫に大変配慮していますので、出入りは正面の玄関からのみに限定します。園庭側は土日のみ利用してください。

③ ミサ中継配信、聖体礼拝等の計画

バチカンや東京、広島カテドラル等の動画配信がなされていますが、福山教会でも始めようと企画しています。他があるならする必要がないという人もいますが、それは短絡的な発想であると思います。目に見える形での共同体である、小教区というものを大切にしていきたいからです。

また、聖体礼拝等を実施したいと考えています。聖体礼拝とは、継続的に聖体を顕示し、その前で祈るというもの

です。ただ、顕示中に誰もいないということがないようにする必要がありますので、実施は信徒の方々の祈りへの要望と熱意に依ります。

④ ミサ意向、秘跡や準秘跡の個別対応について

ミサの意向は受け付けています。毎日ミサは捧げられますし、希望があれば防疫措置に十分配慮した上で、その他の秘跡等の執行も可能です。各自、希望があれば申し出て下さい。

⑤ 連絡網の整備と、『萌』の充実、ホームページの整備

集まらないので、連絡の為、代替手段を講じます。

連絡網が余り機能しておらず、流言飛語や電話対応に追われるなどの事態が発生しており、とても残念です。誤った情報を信徒の間に広める前に、きちんと確認して下さい。皆様が親切のつもりで人に教えても、「〇〇さんから聞いた」などの形で確認電話や誤った情報の拡散が起こる危険性があることを、十分に考慮して下さい。今後、従来の電話連絡網以外に、一斉メール送信や、その他の連絡手段も加えていきます。

また、司祭と関わる機会も減っていますし、代わりに『萌』の内容を充実させたいと思います。その他、取りに来るのが難しい方のために、郵送や、メールによるカラー版の配信も行っています。

尚、ホームページはリニューアルし、連絡の充実と迅速化などを図ります。しばらくの間は緊急事態宣言対応にしています。その他、色々なお知らせを載せていきますので、最新情報に触れるためにも、こまめに確認いただくと幸いです。

⑥ 通夜・葬儀に関して

現在、葬儀の場が、新型コロナウイルスの拡散に繋がっているとされています。申し訳ございませんが、通夜・葬儀への参加は近親者等、極少人数に限定したいと思います。

また、元々葬儀は日中に行われることが多く、通夜に比べて参加者が少ない傾向にあります。通夜前後も教会は開放していますので、少人数ずつ十分に防疫措置を講じた上で、各自で弔問されることは禁止しませんので、お別れにお越しください。

献花・焼香等は、十分に間隔を空けて、一人ずつとします。集団で棺を囲みたくなる気持ちは分かりますが、当分の間は禁止とさせていただきます。

ローマ教皇フランシスコが復活徹夜祭、「恐れるな」と呼び掛け



(CNN) キリスト教のイースター（復活祭）を前に、ローマ教皇フランシスコは11日、バチカンのサンピエトロ大聖堂で「復活徹夜祭」を執り行った。教皇はイエス・キリストが復活した時に語ったとされる「恐れることはない」という言葉を引用し、「恐怖に負けてはいけない。これは希望のメッセージだ。私たちに向けられた言葉だ。神様はまさに今夜、この言葉を繰り返される」と説いた。徹夜祭には例年、数千人が集まるが、今年は新型コロナウイルス感染拡大による封鎖措置を受け、規模が大幅に縮小された。

【福山教会の対応】

- ①公開ミサ・当番での掃除・定例委員会は、当分の間ありません。(4/19～5/24)
- ②ミサは、福山教会主日ミサ 9:00～を動画配信します。
- ③個人的な祈りを通して、新型肺炎の死者や感染によって苦しんでいる人のために、そして、一日も早い感染収束を願ってともに祈りや犠牲をささげましょう。

【例】

- ・世界中で流行している新型肺炎によって亡くなられた方々を永遠の安息に導き、そして感染された方々には、一日も早い健康回復の恵みを与えてください。
- ・新型肺炎の防止のために懸命に働いている国家の指導者、医療従事者、家族の方々の労苦を顧みてください。一日も早く収束に向かうように、彼らを支え、導いてください。等

コロナ感染が拡大する中、福山教会員も心を合わせて祈りましょう。
午後7時にその場で祈ることを呼び掛けます。

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

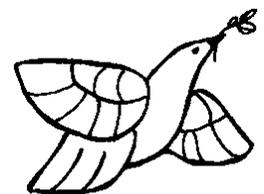
いつくしみ深い神よ、
新型コロナウイルスの感染拡大によって、
今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、
感染の終息に向けて取り組むすべての人、
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ
尽きることのない安らぎに満たされますように
不安と混乱に直面しているすべての人に、
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、
私たちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、
世界のすべての人と助け合って、
この危機を乗り越えることができるようお導きください。
私たちの主イエス・キリストによってアーメン。

希望の慰めのよりどころである聖マリア、
苦難のうちにあるわたしたちのためにお祈りください。



ピッカピッカの一年生

- ・ヨセフ 千種理仁
- ・ユイ 中見 Yui
- ・リア 田中李愛
- ・ヨハネ 大内光
- ・Megumi Endou Megumi
- ・Martin De Pores 城上蒼哉



初聖体おめでとうございます

4/12 (日) 9:00~のご復活ミサで初聖体を拝領しました。



エリジオ 千種慧大君



オジアス 大城新誠一君

受洗おめでとうございます



受洗までの私の道のり

ヨゼフ 河内 博美

変則的な復活祭を迎えた 2020 年に受洗のチャンスを頂きました。

フレデリック神父のもとで百瀬神父様のカトリック要理解説の勉強をしておりました。この度、神父様の三原教会への転任を区切りに、入信の決意をいたしました。そして、この受洗に先立って、富山先生が代父となってくださる旨の一押しもありました。最近、私たちの身の回りに世にも不思議な感染力の強い新型コロナウイルスという細菌が突然この世に現れ、瞬く間に拡大してしまい、世界中の多くの人々が今でも悩まされ続けている状況が続いております。

私は、終戦（昭和 20 年）の 10 月に南朝鮮の古都（百済）から、原爆投下直後の広島市に引き揚げ者として、初めて日本に帰ってきました。当時、国民学校の 2 年生でした。それ以降、私は広島県の北で育ち、所定の学業を終えて、茨城県の日立市で初めて独立した社会人としてスタートしました。その後、ご縁があって、福山市に転居して以来、早、42 年が経過致しました。この間、多少ともカトリック教会に縁はあったものの、今日まで未信者の身分で過ごしてまいりました。

しかし、終活の期にも入り、今回皆様のお仲間に入れて頂くこととなりましたので、よろしくお願いたします。



4/12（日） 9：00～のご復活ミサで
受洗された方々

- ・ルチア 横山美紀子様
- ・エンリケ ケイジ オノ様
- ・ヤコブ 松長和幸様
- ・ガブリエラ 新内春美様
- ・マリア・セシリア 河野清美様





新しい年度が始まり、皆様大変お忙しいことと存じます。忙しさの中にも新鮮な空気が感じらる毎日でしょう。コロナの関係で混乱かもしれませんね。私達も今年度は4人から3人に減って淋しいです。3人になりましたが、また新しい出会い、新しい出来事に期待を膨らませています。

3月には東日本大震災の10年目を迎える祈念式典・祈念の行事があるはずでしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため様々な行事が中止となり、本当に残念でした。3月初旬に静修と会議のために帰福し、3.11に間に合うように南相馬に帰ったのですが、行事がないのではどうにもなりません。私がかろうじて参加できたのは、同慶寺での諸宗教合同の祈念式でした。これも縮小して参加者は、同慶寺住職さん達お坊さんが5名くらいと檀家さん数名、カリタスから12

名、「いのちの行進」(毎年被災地を祈りながら行進する行事)の参加者十数名、総勢三十数名の小規模でした。でもお経あり、神道の祝詞あり、何宗かわからないのですが踊りと音楽による祈りの奉納、私たちカトリックはテゼの歌と主の祈り、東日本大震災被災者のための祈りといった簡単な祈りを捧げました。よい祈りの式でした。祈りの後、カリタスのメンバーは小高区の村上地区(いつか紹介した全部落津波で流された地域)の霊園に祈りに行きました。毎月、月命日の11日にはお墓参りをし祈ってきましたが、この日は特別です。カリタスのメンバーと一緒に祈れたのはよかったです。心から亡くなった方々のご冥福を祈り、まだ行方不明の方三千人弱(南相馬で見つからない方11人)が早く家族のもとに帰って来られるよう祈りました。また今を懸命に生きておられる方々が、天国に召されたご家族の取次ぎで健やかな日々が過ごせますようにとも祈りました。



3月2日から政府の感染拡大を阻止するための思い切った措置、全国の小・中・高の学校閉鎖を受けて、カリタス南相馬も全国から来られるボランティアの受け入れを中止しました。春休みに予約して下さった大学生、高校生等一般の方も含め電話連絡で受け入れ中止を告げました。

コロナ騒動によってボランティアが受け入れられなくなって大変困っておられるのが、台風19号の被災地の方々だと思います。まだまだ、家の床下や溝などの泥掻きが終わっていない被災者の方々の復興がさらに遅れること、春に向かうとは言えまだまだ寒さの中で大変な生活だと思います。

コロナのことでは、こんなこともありました。教会の信者さん達が、私達としては異常と思えるような反応を示されて、これは何なの？と首をかしげました。例えば教会の入り口に消毒液を置くことは勿論勧められていることですが、ナイロン手袋をはめて奉献をするなどいろいろ



ろとありました。もちろん実際にはや
らなかったのですが。でもそれには訳があ
ることも分かりました。

原発事故で南相馬の人たちは、病原菌
のような扱いを受けたのです。福島から
来たというだけで、子供たちも友達から
そばによるな、放射能がうつるとか言っ
て差別され、いじめられたのです。

今回自分たちが感染すれば、またどん
な仕打ちを受けるかわからないという
心配からの反応だったのです。本当に悲
しいと感じました。人はどこでどんなこ
とにかかわっていくかわかりません。い

つ自分がその立場になるかもわからないのです。そして何より、困った人にこそきょうだいとして優しい心で包んであげるはずなのに・・・まだまだ傷跡の深い被災者のかたがたを心に留めて祈って下さい

カリタス南相馬の本来の仕事も、真ごころサロンも、ぷらっとほ一むの活動もしばらく中止です。とても残念です。コロナ感染症が早く終息する事を祈るばかりです。

もっともっとお伝えしたい事はありますが、今回はここまでとします。

福山教会メール連絡網への登録のお願い（再度）

新型コロナウイルス蔓延により教会からの連絡が届きにくくなっています。教会からの緊急の連絡を皆さんに届けるために、福山教会メール連絡網（マメール）への登録をお願いします。

登録方法

1. 皆さんの携帯、スマホから以下のアドレスに「空メール」を送ってください。
fuku-ch@mamail.jp
2. すぐにメールが送られてくるので、その指示に従って入力し、送信してください。
3. 登録完了です。

上記の方法で登録できない方

ほとんどの場合が、お使いの携帯が迷惑メールと判断し、メール受信をブロックしているケースです。お使いの携帯の迷惑メール設定を変更する必要があります。次いずれかの方法で設定を変更してください。

- ① お使いの携帯ショップに駆け込み、mamail.jp が受信できるようにしてもらおう
- ② 以下のアドレスに接続し、指示に従って自分で設定を変える

<http://www.mamail.jp/ds/>

5月・6月の行事予定

5 月		6 月	
3(日)	津和野乙女峠まつり→中止 世界召命祈願の日	7(日)	三位一体の主日
9(土)	備後三教会合同幹事会 於尾道教会	14(日)	キリストの聖体
10(日)	尾道教会マリア祭		
17(日)	9時ミサ後 信者総会 世界広報の日	19(金)	イエスのみ心
23(土)	広島地区 召命祈りの集い(翠町) →中止	24(水)	洗礼者ヨハネの誕生
24(日)	主の昇天 *ここまでミサ非公開 日曜学校歓迎遠足(神石高原)	29(月)	聖ペトロ聖パウロ使徒
31(日)	聖霊降臨		

※事務受付時間

月曜日：休み

火曜日～日曜日：10時～16時(多少の時間変動あり)



【投稿依頼】

月報は従来週の週報では伝えきれない教会のその月の祝日や、重要な事などを報道し、私たち信者の交流を図るものですから、広く皆様の信仰体験、行事の感想、思い等を募集しています。

今年は3月以降、とくに「コロナ」の言葉を聞かない日はない程、世界中がコロナ禍の試練の中に生きています。皆様も十分気を付けてくださいますように。

月報作成委員会